

中学校における体育的な活動に関する調査研究

富田 幸博*・佐々木吉蔵*
山田良樹*・富岡元信*

(昭和 55 年 12 月 1 日受付)

A Study on Physical Education Activities at Junior High School

By Yukihiro TOMITA, Kichizo SASAKI, Yoshiki YAMADA
and Motonobu TOMIOKA

The Course of Study for Junior High School was revised in 1978. In the new issue a characteristic of development of body and mind of a student is taken into reconsideration in order to enable students to develop physical strength as well as to have ability to practise P. E. exercise throughout all their lives. Moreover, it is indicated in the Course of Study, General Rules, Chapter 1—Verse 3, that students ought to be trained properly not only in their P. E. class but also in any kind of special activities.

The whole programme of the Course of Study indicates P. E. activities in everyday life to be stimulated and a full school life to be actualized.

In this study I made research on actual condition (including consciousness) of P. E. lesson as well as compulsory activities and extracurricular activities at Junior High School.

I. 研究の目的

学校における体育的な活動に関する指導については、保健体育の時間はもちろん、特別活動などにおいても十分指導するように努めるとともに、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとされている^{1),2)}。

本研究の目的は、学校教育の現場特に、中学校における教科体育・必修クラブ（体育的なクラブ）及び課外クラブ（運動部）の生徒の参加状況あるいは参加意識を把握し、それらの意識を通して、体育的な活動の実態を明らかにすることを目的とした。

II. 研究の方法

1. 調査対象

東京都区内（2校）と神奈川県内（1校）の公立中学校の昭和 55 年 4 月現在 3 年生を対象とした。

2. 調査期間

昭和 55 年 4 月 10 日 ≤ 30 日

3. 調査方法

質問紙法によるアンケート調査を実施した。

集計には、教科体育の参加状況を軸として、教科体育に求めるもの、必修クラブ（体育的なクラブ）参加の動機・理由及び課外クラブ（運動部）参加の動機・理由をクロス集計した。

4. 回収数

回収数内訳を表 1 に示す。

III. 結果と考察

1. 教科体育の参加状況

表 2 に示す通り、一番多いのが、「よろこんで参加している」と答えた生徒であり、次いで「何んとなく参加している」「はっきりわからない」「しかたなく参加している」の順に示された。

* 体育管理研究室

表1 回収数

学校名	性別		
	男子	女子	計
都世田谷区立 T 中	147	131	278
都品川区立 H 中	84	83	167
神奈川県三浦市立 U 中	43	40	83
合計	274	254	528

表2 教科体育の参加状況

項目	%
イ よろこんで参加している	43.2
ロ 何んとなく参加している	33.5
ハ しかたなく参加している	5.9
ニ はっきりわからない	17.4

特に、「よろこんで参加している」という主体性をもって積極的に参加している割合よりも、

「何んとなく」「はっきりわからない」「しかたなく」参加しているという、主体性をもたないで参加している方の割合が多く示されている。

以上の結果から、今回は、主体性を示している「イの層」の生徒と、主体性を示していない特に「ハの層」の生徒を対象に考察をする。

2. 教科体育に求める内容

表3, 図1に示すように、イの層は、「健康の増進と体力の向上」「運動の技能を身につけること」「運動に親しむ習慣」などに比較的多く示されている。反面、ハの層は、「楽しさや喜びを体得すること」に多く示されている。

また、「健康安全についての理解」「慎重に行なう態度ができること」の項目には、両層ともに割合が少なく示されている。

さらに、保健体育科の観点として、「運動の

表3 教科体育に求める内容

項目	イ. %	ロ. %	ハ. %	ニ. %
1 健康の増進と体力の向上	13.0	12.3	6.9	12.0
2 健康の維持に役立つこと	4.4	5.8	3.9	3.0
3 強健な身体を育てること	8.9	6.4	2.0	7.9
4 運動の合理的実践	2.2	2.1	2.0	1.5
5 運動の技能を身につけること	13.5	11.6	6.9	9.4
6 動作が機敏になること	4.9	5.7	3.9	7.5
7 疲労の回復に役立つこと	1.8	4.8	4.9	2.6
8 楽しさや喜びを体得すること	10.9	13.2	14.9	12.9
9 積極的に行動ができること	5.8	4.8	2.9	7.5
10 生活を健全に明るく豊かに営む態度の育成	3.2	3.2	2.0	1.5
11 身体の悪い部分の矯正に役立つこと	2.1	1.4	8.0	2.6
12 指導する能力ができること	1.3	0.7	2.0	1.1
13 運動に親しむ習慣	9.2	5.3	6.9	7.5
14 責任感が強くなること	2.6	1.6	2.0	1.5
15 正義感がつくられること	1.3	1.1	3.9	1.1
16 集団行動と協調性を養うこと	3.8	4.6	4.9	1.5
17 礼儀正しくなること	1.6	2.3	3.9	1.9
18 規律正しく行動すること	1.1	0.7	2.0	1.1
19 仲間意識を高めること(友情が深められること)	2.7	4.1	2.9	6.8
20 けじめをつけて行動すること	1.5	1.1	4.9	2.3
21 気分転換ができること	3.4	5.8	5.9	6.4
22 健康安全についての理解	0.6	0.9	2.9	0
23 慎重に行なう態度ができること	0.2	0.5	0	0.4

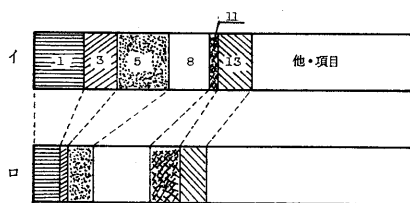


図1 教科体育に求める内容

技能」「知識・理解」「運動・保健に対する関心・態度」からみると、イの層は、「運動の技能」面に比較的多く示され、ハの層は「運動・保健に対する関心・態度」面に比較的多く示されている。

また、「知識・理解」の面については、両層ともに割合が少なく示されている。

イ、ハの層を比較すると、主体性をもって積極的に参加しているイの層は、将来への目標に向かって教科体育を実施しようとする前向きな姿勢がみられるのに対して、ハの層は、レクリエーション的な考え方を示す傾向がみられる。

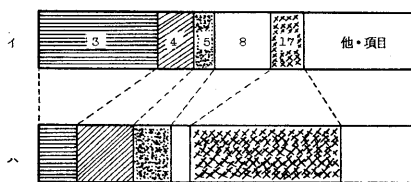


図 2-1 クラブ参加の動機 (必修クラブ)

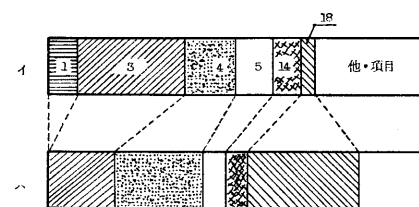


図 2-2 クラブ参加の動機 (課外クラブ)

そこに、教科体育に主体性をもって参加する生徒と、もたないで参加する生徒との間に相違がみられる。

3. クラブ参加の動機

表 4、図 2-1、2-2 によれば、必修クラブ(体育的なクラブ)において、イの層は、「以前

表 4 クラブ参加の動機

項	目	必修クラブ (体育的なクラブ)				課外クラブ (運動部)			
		イ. %	ロ. %	ハ. %	ニ. %	イ. %	ロ. %	ハ. %	ニ. %
1	小学校で現在と同じクラブに所属していたから	5.3	3.4	0	5.0	7.4	8.5	0	11.9
2	地域のクラブ (スポーツクラブ・スポーツ少年団等) に行っていたから	2.6	0	5.0	2.5	3.5	4.2	5.9	3.0
3	以前からやってみたくて思っていたから	31.5	19.0	10.0	22.5	28.7	24.7	17.6	26.8
4	好きな仲間がいたから	9.6	29.4	15.0	32.5	13.5	12.0	23.5	22.3
5	クラブの上級生・仲間におすすめされたから	5.3	3.4	10.0	5.0	10.0	9.2	5.9	6.0
6	先生におすすめされたから	1.8	0	0	5.0	2.2	0.7	0	1.5
7	家族におすすめされたから	3.5	1.7	0	2.5	4.8	2.8	0	0
8	クラブの紹介を聞いてから	14.9	13.8	5.0	7.5	4.3	3.5	5.9	3.0
9	ポスターなどを見てから	1.8	0	0	0	1.3	0.7	0	1.5
10	好きな先生がいるから	1.8	0	5.0	2.5	1.3	0	0	0
11	教科体育の授業で興味をもったから	7.0	6.9	5.0	2.5	3.0	2.1	0	1.5
12	練習試合をみてから	—	—	—	—	3.5	7.0	0	3.0
13	強いクラブと聞いていたから	—	—	—	—	1.3	3.5	0	0
14	選手になりたくて	—	—	—	—	7.4	10.6	5.9	9.0
15	施設用具をみてから	—	—	—	—	0.4	0	5.9	0
16	練習時間が自分の体にあっていたから	—	—	—	—	3.0	4.9	0	6.0
17	なんとなく	8.8	17.2	40.0	12.5	0.9	0.7	0	0
18	その他	6.1	5.2	5.0	0	3.5	4.9	29.4	4.5

からやってみたくて思っていたから」「クラブの紹介を聞いてから」などの動機によって参加している傾向が示されている。

反面、ハの層は、「なんとなく」という、はっきりしない動機によって参加している傾向が示されている。

課外クラブ（運動部）においてイの層は、「以前からやってみたくて思っていたから」という、動機で参加している傾向は、必修クラブと同様の結果が示されている。

ハの層は、「好きな仲間がいたから」という人間関係による動機で参加している傾向が示されている。

特に、「選手になりたくて」「施設用具をみてから」などの項目に比較的多く示されたことは興味があり、今後の課題としたい。

さらに、イ、ハの層を比較してみると、教科体育で主体性をもって参加している生徒は（イの層）、必修クラブ（体育的なクラブ）、課外クラブ（運動部）参加の動機においても積極的な参加の傾向がみられる。

反面、ハの層は、「好きな仲間がいたから」という人間関係による動機で参加している傾向がみられる。また、「小学校で現在と同じクラブに所属していたから」という項目については、0%という結果が示されている。

このことは、主体性をもって参加している生徒と、もたないで参加する生徒との間に相違がみられる。

同様に、「なんとなく」という項目について、必修クラブと課外クラブを比較すると、必修クラブでは、40%も示されているのに対し、課外クラブでは、0%という矛盾した結果がみられる。また、0の割合が多く示されていることは、参加の動機として、自分自身のはっきりした意識のなさがいえる。ようするに、主体性の欠如が考えられる。

4. クラブ参加の理由

表5、図3-1、3-2によれば、必修クラブ（体育的なクラブ）において、イの層は、「好きだから」という理由によって参加している傾向が比較的多く示されている。

表5 クラブ参加の理由

項	目	必修クラブ (体育的なクラブ)				課外クラブ (運動部)			
		イ. %	ロ. %	ハ. %	ニ. %	イ. %	ロ. %	ハ. %	ニ. %
1	身体をきたえるため	9.4	9.2	13.3	4.4	15.6	11.6	14.7	13.7
2	体力をつけるため	13.2	16.7	16.8	10.0	11.5	13.7	14.7	11.5
3	健康によいため	6.6	6.9	10.0	7.8	7.0	6.7	2.9	5.0
4	技能や記録をあげるため	5.1	1.5	0	6.7	7.2	5.3	5.9	2.9
5	きびしいため	1.2	0.8	6.7	0	1.2	0.4	0	0.7
6	スポーツマンシップを身につけるため	3.1	2.3	13.3	2.2	5.6	4.2	0	3.6
7	礼儀感や協力の仕方を身につけるため	5.5	2.3	0	4.4	5.4	3.5	0	4.3
8	友達と友情が深められるため	5.9	7.6	3.3	7.8	6.6	7.4	8.8	11.5
9	仲間と楽しく練習ができるため	10.2	12.2	3.3	12.2	7.6	9.5	5.9	10.0
10	規則を守ることを身につけるため	1.2	0	0	2.2	1.6	2.5	0	0.7
11	好きだから	16.7	12.9	6.7	15.7	16.1	16.1	20.6	15.8
12	楽しいから	8.2	10.7	10.0	10.0	4.5	8.5	5.9	9.4
13	ためになるから	2.0	5.3	0	2.2	1.9	0.7	5.9	0
14	気晴らしのため (気分転換)	2.7	4.6	3.3	6.7	1.8	2.1	0	5.0
15	自分の興味、趣味が生かされるため	5.9	3.1	3.3	3.3	5.8	6.7	8.8	3.6
16	なんとなく	2.7	3.1	10.0	4.4	0.4	1.1	5.9	2.2
17	その他	0.4	0.8	0	0	0.2	0	0	0

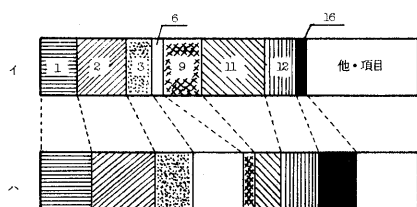


図 3-1 クラブ参加の理由 (必修クラブ)

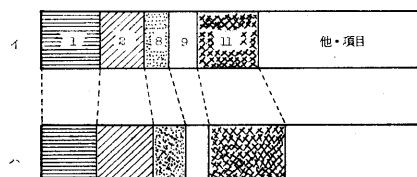


図 3-2 クラブ参加の理由 (課外クラブ)

反面、ハの層は、「体力をつけるため」「身体をきたえるため」「スポーツマンシップを身につけるため」などの理由によって参加している傾向が示されている。

特に、参加の理由として、ハの層において「運動の技能」の面に比較的多く示され、教科体育とは反対の結果が示されている。

課外クラブ（運動部）において、イの層は「身体をきたえるため」という理由で参加している傾向が比較的多くみられる。

反面、ハの層は、「好きだから」という理由で参加している傾向が比較的多く示されている。

イの層は、教科体育に求めるものと同様に「運動の技能」の面に参加する理由をもって参加していることがいえる。

さらに、イ、ハの層を必修クラブと課外クラブに分けて比較すると、「運動の技能」の面に比較的多く、イの層は、課外クラブに示され、ハの層は、必修クラブに示され反対の結果がみられる。

主体性をもって参加しているイの層の生徒は、積極的に課外クラブに参加し身体、体力をつけ、技能への挑戦をしようとする傾向が考え

られる。

ハの層において、特に興味をもつのは、「スポーツマンシップを身につけるため」の項目である。必修クラブでは、13.3%であるのに対し、課外クラブでは、0%という結果が示されている。

また、「好きだから」の項目をみると、「スポーツマンシップを身につけるため」とは反対の結果が示されている。

動機で述べた主体性の欠如については、理由の面から考えると一概にそういうことはいえないようである。

IV. まとめ

教科体育について、主体性をもって参加する生徒と主体性をもたないで参加する生徒とに分けて比較を試みた結果、次のようなことが明らかになった。

主体性をもって参加している生徒は、クラブ活動においても積極的参加の傾向を示している。

反面、主体性をもたないで参加している生徒は、クラブ活動についても、同様な傾向を示している。

今後は、主体性をもたないで参加している生徒を、積極的に体育的な活動へ参加させるために配慮がなされるべきである。

文 献

- 1) 中学校学習指導要領: 1~3, 文部省, 昭和 52 年 7 月号.
- 2) 佐々木吉蔵: 体育・スポーツ法令便覧, 116~124, 第一法規, 昭和 55 年 4 月.

参 考 文 献

- 1) 中学校指導書 (保健体育編): 文部省, 昭和 53 年 5 月.
- 2) 中学校指導書 (特別活動編): 文部省, 昭和 53 年 5 月.
- 3) 中等教育資料: 文部省, 昭和 55 年 6 月.